

浜の活力再生プラン
令和 7～11 年度
第 3 期

1 地域水産業再生委員会

組織名	小松島地区地域水産業再生委員会（和田島地区）
代表者名	会長 三原 秀之（小松島漁業協同組合 参事）

再生委員会の構成員	小松島市、小松島漁業協同組合、和田島漁業協同組合
オブザーバー	徳島県水産振興課

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	徳島県小松島市和田島町（和田島漁協） 機船船びき網漁業（25名） 小型機船底びき網漁業（13名） （令和6年12月時点）
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

当地区海域は紀伊水道に面しており、吉野川・那賀川の両一級河川に挟まれ恵まれた漁場を有し、漁船漁業や藻類 ワカメ 養殖業が盛んに行われている。その中でも特に機船船びき網漁業が盛んで当地区水揚げの中心となっている。

機船船びき網漁業は徳島県下一の漁業者数と漁獲高を誇り、水揚げされたシラスを加工した「和田島ちりめん」のブランド力向上に取り組んできた。しかしながら、近年における漁獲高の減少や、所属する組合員の高齢化や漁業後継者不足 魚価の低迷など解決すべき問題や課題は多い。

以前はシラスの自加工を営む漁業者が多かったが、従業員の高齢化及び人員不足、加工施設の老朽化に伴う維持管理 経費 や設備投資の増大が経営を圧迫し、自加工を廃業するケースが増え、生シラス出荷を行う漁業者が主流となっている。

また、近年では小型機船底びき網漁業者数名が兼業できる漁業を模索、マガキ養殖に注目し令和4年9月に和田島漁協カキ部会を発足。試験養殖を開始し、令和5年9月1日に漁業権を取得。本格的にマガキ養殖に取り組んでいる。

地域の水産業の特徴としては、漁獲物を「ちりめん」に加工する一次加工から、生出荷を行うことが主流となり、輸送時の鮮度維持・品質向上に取り組むことで、商品価値を高めることが重要となっている。漁協の既存製氷施設では氷供給量が不足し、漁業者の需要に対応出来ていない為、新たに製氷施設を整備する必要がある。

また現在、漁協では直販店を運営し、顧客ニーズ等の把握に努めているところであり、特別感を演出するため、その日に水揚げされた「かまあげちりめん」を中心に、「やわらかちりめん」、「ちりめん」、「塩蔵ワカメ」、「マガキ」といった地元産品の販売を促進し、漁業収入の増加に繋がるよう取り組んでいるところである。

(2) その他の関連する現状等

小松島市は、徳島県の東側に位置し、徳島市と隣接した人口約3万4千人の都市である。紀伊水道に面した港町で、鱧やエビ、しらすなどが水揚げされており、また、農業では米やオクラ、きゅうり、シイタケなどが栽培され、有機農業も推進している。赤石地区国際物流ターミナルは、定期コンテナ航路や木材チップ船などが利用する物流拠点となっている。人口減少、高齢化、そしてそれに伴う経済の衰退、インフラ老朽化、防災対策の遅れなどが挙げられ、特に、人口減少は深刻で、就業者数の減少や空き家の増

加、それに伴う地域経済の低迷が懸念されている。人口減少を抑制するため、小松島市第6次総合計画後期基本計画の対策に基づき、各種取組を行っている。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

【漁業収入向上のための取組み】

(鮮度保持・品質向上の取組)

曳網時間を短縮し、こまめに網揚げを行うことで魚体の損傷を防ぎ、プレート氷製氷施設及び滅菌流動海水氷施設を活用することで、漁獲物の鮮度を保ち、漁獲物の鮮度保持・品質向上を図り、魚価向上に繋げる。

近年の漁業者の需要増加に対応する為に、プレート氷製氷施設を追加で整備し、操業機会を確保するなど、状況の推移や経営体の意向を踏まえながら鮮度保持・品質向上の取組を検討する。

(資源の維持・回復の取組)

漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビ・アジアカエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げを積極的に行うほか、曳網時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理を行う。

【漁業コスト削減のための取組】

(省エネ機器・設備導入の取組)

省エネ機器・設備導入により整備コスト削減及び省燃油に繋げるよう努める。

(減速航行の取組)

減速航行（機関回転数を200回転下げる）を実施し燃油コスト削減に努める。

(船底清掃の取組)

船底清掃により船底と海面の抵抗を少なくし、燃費向上を図ることで経費削減に努める。

(操業時間低減の取組)

操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減に努める。

これら取組に関しては、国、県、市の事業の活用を図ることとし、漁業収入向上と漁業コスト削減とを組み合わせ、総合的に漁業者の所得向上を図る。

【漁村の活性化のための取組】

(食育の取組)

和田島漁協は小松島市食育推進実務者会議の会員として、引き続き小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することや、イベント等（地域高校の料理コンテストへの食材提供等）を通じて次世代に向けた魚食文化の継承に向け取り組んでいく。

(PR活動の取組)

和田島漁協主催の水産物PRイベント「和田島ちりめん市」を毎年開催するとともに、漁協直営の直売所における「和田島ちりめん」の販売を強化しブランド認知の向上を図るほか、市等と連携しながら首都圏での販促イベントやPRイベントに積極的に参加することで、更なる販路拡大を図る。

(3) 資源管理に係る取組

【機船船びき網漁業】

- ・ 漁業者の自主的取組として一斉休漁の取組（日曜日定休、平日1日または2日の一斉休漁）や、操業時間の短縮（曳網終了時間を14時に設定）、シラス袋網の目合の規制（最小目合220経に制限）等を行っている。
- ・ 公的管理措置として、漁業許可に際し「総トン数20t未満」（瀬戸内海機船船びき網漁業許可方針（徳島県の方針））、「馬力数143kw以下」（昭和38年農林省告示908号）、「夜間操業の禁止」（瀬戸内海機船船びき網漁業許可方針（徳島県の方針））の制限を付している。
- ・ 徳島県和田島漁業協同組合における資源管理協定（令和5年12月25日締結）により以下の取組を行っている
11/1 から10/31 の期間中、200 日以上の休漁
週1日以上の休漁
徳島県鱈船びき網協会連合会において定めた資源管理の取組
休漁日の設定 等

【小型機船底びき網漁業】

- ・ 漁業者の自主的取組として操業時間の短縮を実施し資源管理に努めている。
- ・ 徳島県和田島漁業協同組合における資源管理協定（令和5年12月25日締結）により以下の取組を行っている
8/1 から7/31 の期間中、180 日以上の休漁
週2日以上の休漁
徳島県中部底びき網協会において定めた資源管理の取組
体重200g以下、あるいは4kg以上のハモの再放流 等

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和7年度） 所得向上率（基準年比）3.5%

漁業収入向上のための取組	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船びき網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、鮮度保持の為に、淡水プレート氷及び滅菌流動海水氷の利用促進に努め、品質向上を図り、漁協の既存施設では不足しているプレート氷について、追加で製氷施設整備を行い、漁業者の需要増加に対応する。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビ・アジアカエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳網時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	漁業者の構成員は漁業コスト削減のため以下の取り組みを行う。 <ul style="list-style-type: none">・ 船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。・ 減速航行を積極的に実施する。・ 船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。・ 操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、操業効率について、検討する。
漁村の活性化のための取組	<p>(食育の取組)</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給</p>

	<p>食への食材提供)等の取組に参加することや、イベント等(地域高校の料理コンテストへの食材提供等)を通じて地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>(PR活動の取組)</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売を行い地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上を図る他、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業(国)</p> <p>水産業強化支援事業(国)</p> <p>漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業(国)</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業(国)</p> <p>とくしま農山漁村未来投資事業(県)</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業(市)</p>

2年目(令和8年度) 所得向上率(基準年比) 3.5%

漁業収入向上のための取組	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船びき網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。さらに、鮮度保持の為に、淡水プレート氷及び滅菌流動海水氷の利用促進に努め、品質向上を図り、漁協の既存施設では不足しているプレート氷について、追加で製氷施設整備を行い、漁業者の需要増加に対応する。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビ・アジアカエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳網時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>当委員会構成員は漁業コスト削減のため以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。 減速航行を積極的に実施する。 船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討する。
漁村の活性化のための取組	<p>(食育の取組)</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小中学校を対象とした地元水産物の食育活動(学校給食への食材提供)等の取組に参加することや、イベント等(地域高校の料理コンテストへの食材提供等)を通じて地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大を図る。</p>

	<p>(PR活動の取組)</p> <p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型機船底びき網漁業で漁獲されたハマやタチウオ等の鮮魚販売を行い地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上を図る他、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p> <p>漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>とくしま農山漁村未来投資事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>

3年目（令和9年度） 所得向上率（基準年比）10.9%

漁業収入向上のための取組	<p>(鮮度保持・品質向上の取組)</p> <p>機船船びき網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。前年度整備した製氷施設を活用することで淡水プレート氷をより多くの漁業者が活用できるようになり操業機会が確保され、漁獲量の向上が図られる。さらに、鮮度保持の為に、氷を使用することで歩留まりがよくなることを周知するなどの取組により滅菌流動海水氷及び淡水プレート氷の積極的な利用を促進し、品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>(資源の維持・回復の取組)</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビ・アジアカエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳網時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>当委員会構成員は漁業コスト削減のため以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。 減速航行を積極的に実施する。 船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討する。
漁村の活性化のための取組	<p>(食育の取組)</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することや、イベント等（地域高校の料理コンテストへの食材提供等）を通じて地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>(PR活動の取組)</p>

	<p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売を行い地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上を図る他、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p> <p>漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>とくしま農山漁村未来投資事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>

4年目（令和10年度） 所得向上率（基準年比）10.9%

漁業収入向上のための取組	<p>（鮮度保持・品質向上の取組）</p> <p>機船船びき網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚げを行う。令和8年度に整備した製氷施設の活用することで淡水プレート氷をより多くの漁業者が活用できるようになり、操業機会が確保され、漁獲量の向上が図られる。さらに、鮮度保持の為に、氷を使用することで歩留まりがよくなることを周知するなどの取組により滅菌流動海水氷及び淡水プレート氷の積極的な利用を促進し、品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>（資源の維持・回復の取組）</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビ・アジアカエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳網時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理を行う。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>当委員会構成員は漁業コスト削減のため以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。 減速航行を積極的に実施する。 船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討する。
漁村の活性化のための取組	<p>（食育の取組）</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することや、イベント等（地域高校の料理コンテストへの食材提供等）を通じて地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>（PR活動の取組）</p>

	<p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売を行い地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上を図る他、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p>
活用する支援措置等	<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p> <p>水産業強化支援事業（国）</p> <p>漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）</p> <p>水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）</p> <p>とくしま農山漁村未来投資事業（県）</p> <p>小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）</p>

5年目（令和11年度） 所得向上率（基準年比）10.9%

漁業収入向上のための取組	<p>（鮮度保持・品質向上の取組）</p> <p>機船船びき網漁業において、特に漁獲が少ない日は長時間曳網するため魚体の弱いシラスは水揚げ時に品質劣化が進んでおり、加工すると製品の歩留まりが低下したり、魚体が折れ曲がるなど品質が悪化したりすることから、取引価格に悪影響を及ぼしている。これらを改善するために曳網時間を短縮し、こまめに網揚を行う。令和8年度に整備した製氷施設の活用することで淡水プレート氷をより多くの漁業者が活用できるようになり、操業機会が確保され、漁獲量の向上が図られる。さらに、鮮度保持の為に、氷を使用することで歩留まりがよくなることを周知するなどの取組により滅菌流動海水氷及び淡水プレート氷の積極的な利用を促進し、品質向上を図る。</p> <p>また、小型機船底びき網漁業において、1操業あたりの曳網時間の短縮や1日あたりの操業時間を短縮するとともに、品質劣化により黒変しやすい小エビ等で「滅菌流動海水氷」の利用促進に努めることにより、鮮度の高い漁獲物を水揚げし、単価向上を図る。</p> <p>（資源の維持・回復の取組）</p> <p>漁業者が主体となって和田島漁協と協力し、クルマエビ・アジアカエビの種苗放流に取り組み、資源の底上げ等を積極的に行うほか、曳網時間を減少させることで乱獲を防ぎ資源管理に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>当委員会構成員は漁業コスト削減のため以下の取り組みを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 船舶燃費向上を図るため船底清掃を行う。 減速航行を積極的に実施する。 船曳網漁業の曳網船の機関を省エネ機関へ機関換装し燃油消費量削減を実現する。 操業時間を低減させることにより、燃油コスト削減を実現するため、部会等で検討する。
漁村の活性化のための取組	<p>（食育の取組）</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら小松島市内の小中学校を対象とした地元水産物の食育活動（学校給食への食材提供）等の取組に参加することや、イベント等（地域高校の料理コンテストへの食材提供等）を通じて地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>（PR活動の取組）</p>

	<p>年一回、和田島漁協の女性部が中心となり「ちりめん市」と題した水産物PRイベントを開催し、ブランド魚である「和田島ちりめん」の更なるイメージ向上と普及を推進するとともに、小型機船底びき網漁業で漁獲されたハモやタチウオ等の鮮魚販売を行い地元水産物の消費拡大を図る。</p> <p>和田島漁協は漁業者と連携し、当該組合が運営する直売所「ちりめんの店」、東京や大阪にある徳島県のアンテナショップ及び小松島市の友好都市である北海道本別町道の駅などを通して、当地区で水揚げされる、ちりめん・干しエビを主とした水産加工品の販売・PR活動を行う。</p> <p>また、他県で開催される徳島県参加の各イベント・地元小松島市主催の各イベントへ積極的に参加・出品し、地元水産物の認知度向上を図る他、主に大都市圏を中心としたプロモーション活動に向けた取組について戦略的な検討を行う。</p>
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国） 水産業強化支援事業（国） 漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国） 水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国） とくしま農山漁村未来投資事業（県） 小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）

(5) 関係機関との連携

<p>国等の支援事業を積極的に活用し、徳島県漁業協同組合連合会、徳島県漁業共済組合、徳島県や小松島市及び研究機関等と連携を図る。</p> <p>小松島市食育推進実務者会議の会員として、教育機関や行政機関と連携しながら、市内の小学校に学校給食を通じ食材提供地元水産物の食育活動等の取組に参加することや、イベント等を通じて地産地消の推進及び地元水産物の消費拡大に努めている。</p>

(6) 取組の評価・分析の方法・実施体制

<p>毎年担当者会を開催し、取り組みの進捗状況を確認し、評価・分析を行う。</p>

4 目標

(1) 所得目標

漁業者の所得の向上 10%以上	基準年	
	目標年	

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

<p></p>

(3) 所得目標以外の成果目標

① 所得向上の取組に係る成果目標

シラス（生）の単価向上	基準年	令和元年～令和5年の5中3平均	342.3	円/kg
	目標年	令和11年度：	352.5	円/kg

② 漁村活性化の取組に係る成果目標

「和田島ちりめん市」参加人数10%増	基準年	令和5年度：	700	人
	目標年	令和11年度：	770	人

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>①所得向上の取組に係る成果目標：シラス（生）の単価向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和8年度に増設した淡水プレート氷の製氷機活用により、シラス（生）の品質の向上が見込まれるため、単価が3%向上する。過去5ヵ年平均単価342.3円を基準年とし、最終年度平均単価352.5円（3%向上）を目指す。尚、前期浜プラン実績より本計画につき無理がなく、妥当と判断する。 <p>②漁村活性化の取組に係る成果目標：「和田島ちりめん市」参加人数10%増</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度から令和4年度まではコロナ禍のため中止しており、令和6年度は通常開催の場所より広い場所で行っていたため、通常開催場所で開催した令和5年度を基準年度とした。ポスターの掲示やマスメディア（ケーブルテレビ等）による周知の取組などにより、参加人数の増加を図ることで令和5年度から10%増加となる770人を目指す。 <p>※イベントは年1回 令和5年度は「第9回和田島ちりめん市」10月15日（日）開催</p>

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業（国）	燃油価格高騰時に補填を受け、漁業経営の安定化を図る。
水産業強化支援事業（国）	浜プランに位置づけられた施設整備の支援。
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業（国）	清掃活動や海洋環境学習等を通し、海の環境保全に努めることで地域資源の価値を向上させる。
水産業成長産業化沿岸地域創出事業（国）	収益性の向上と適切な資源管理の両立を図り、漁業者自らが策定した計画に基づき、目標達成に向けて必要な漁船、漁具等についてリース方式による円滑な導入を支援する。
とくしま農山漁村未来投資事業（県）	地域の未来を担う経営体を対象に規模拡大や経営転換に向けた投資を促進する取り組みを支援
小松島市単独漁業後継者育成対策事業（市）	漁業の次世代を担うリーダー及び後継者の人材を育成する取り組みを支援する。